レイ大高島通信

レイカディア大学同窓会高島支部

第 109 号　令和 7 年 11 月 30 日

発行責任者　西澤　幸夫

◎実施したイベント

□国スポボランティア

国スポボランティアに参加しました。9月28日～10月8日参加者5名

□ボランティア除草低木剪定作業（ミラクル）

10月17日(金)9時～実施しました。参加者16名。

こども応援ミラクル

早くから準備をいただきました役員の方にお礼申し上げます。

□秋季ふれあい活動グラウンドゴルフ（安曇川スポーツセンター）

10月23日（木）参加者は15名でした。

一位　木津紀一郎氏

大会運営にお世話になりました役員の方にお礼申し上げます。

□南部支部合同グラウンドゴルフ帰帆島グラウンドゴルフ場

11月12日（水）12時30分～高島支部参加者2名

❖本部『地域活動発表会』高島支部　湯浅清明氏が発表されました。11月19日（水）に草津キャンパス大教室。

発表テーマ

『伊吹山保全と花のガイド活動に係わって』

◆今後のイベント

◇研修旅行「湖東の歴史・文化遺産研修旅行」

１２月１７日（水）別途、案内を発行します。

見学予定地⇩五箇荘金堂、道の駅愛東マーガレットステージ、伊藤忠兵衛記念館、豊郷小学校旧校舎、岡村本家（酒造見学・試飲）

◇「作品展」安曇川公民館ロビー１月２３日（水）１３時～１月２９日（木）１５時まで

別途、案内を発行します。

新しいイベントとして近江聖人中江藤樹先生の紙芝居を実施します１月２４日（土）１３時～ご家族や知人の皆様を誘って参加願います。

※投稿原稿

□わたSHIGA輝く国スポ

滋賀県では九月二八日～十月二七日にかけて『わたSHIGA輝く国スポ』として第七九回国民スポーツ大会が実施されました。高島市では軟式野球・女子ソフトボール・銃剣道・ウエイトリフティングの競技が実施されました。

レイカディア大学同窓会高島支部からは、志村様・古谷様・鎌田様・西澤様・川尻の五名が各々二回ずつボランティアで勤務しました。私川尻は一回目が九月三十日の女子ソフトボールの弁当配布と環境美化の勤務で快晴の今津総合運動公園で気持ちよく勤務できました。二回目は十月四日の柔剣道大会は新旭体育館で一日中雨の中でした、体育館の勤務と高をくくって出かけましたが勤務は同じく弁当配布と環境美化で屋外のテントでした、柔剣道大会は若い男性の集団で喫煙所の吸い殻の始末が大変でした。

五名夫々がレイカディア大学同窓会高島支部の一員として任務を完遂し大会の運営に寄与できたことを報告します。

三七期琵琶環　川尻

□熊被害は自然の逆襲

熊による人身被害が急増し、２０２５年上半期だけで死傷者が１３０人を超えるなど、深刻な状況が広がっている。生成ＡＩを使い私の思いをまとめました。

令和５年度には統計開始以来最多のペースで被害が発生し、北海道や東北では市街地への出没も増加した。背景には森林伐採や農地拡大による生息環境の悪化、温暖化による食料不足、人間活動の拡大がある。これは単なる「獣害」ではなく、環境破壊や気候変動に対する「自然の逆襲」と捉えるべき現象である。熊被害は自然と人間の関係が崩れているサインであり、駆除という短期的対応ではなく、人間の行動を見直す長期的視点が必要だ。熊は「敵」ではなく「自然の代弁者」であり、被害は「自然からの手紙」と理解できる。

しかしながら、人身被害の救済は最優先である。

洪水や熱波、干ばつなどの災害も同様に自然からの警告であり、私たちは共生の仕組みを再構築しなければならない。具体的には地域循環型の暮らし、野生との境界を尊重する工夫、消費の抑制、共生の文化の醸成が求められる。個人レベルでも環境に優しい買い物、ゴミの削減、リサイクル、熊鈴の携行、徒歩や自転車の利用など小さな習慣を積み重ねることが重要だ。これからの選択は未来世代への贈り物であり責任でもある。熊被害を脅威ではなく警告として受け止め、自然との距離を見直し、持続可能な文化を次世代に残すことが私たちに課された使命である。

2025.11.09 記

投稿　西澤幸夫

【編集後記】

今年も残すところ後１ケ月となりました。終戦８０年の年、女性初の首相の誕生、期待感から株価が５万円代を超えなど、明るい未来が見え隠れした世相となりました。

来年も良き年になります様、お祈り申し上げます。

◎次回１月下旬に**「高島通信」**の発行を予定しています。原稿の投稿をお待ちしています。

メールにて！

投稿先西澤メールアドレス
nisiyuki@sea.plala.or.jp